

2021年8月25日

南関東ブロック加盟団体 各位

第47回 全日本ライフセービング選手権大会  
南関東ブロック予選会実行委員会  
実行委員長 三浦 秀樹

## 南関東ブロック予選会中止に伴う全日本選手権への選手の選出方法について（お願い）

緊急事態宣言の発出に伴い、南関東ブロック予選会を中止せざるを得ない状況となり、8月21日、全日本選手権大会（以下、本選）出場者を決めるための説明会を開催させていただきました。お忙しい中、ご参加をいただいた皆さま、ありがとうございました。

皆さまからお寄せいただいた、「実績を重視すべきではないか」、「成長著しい若手選手に配慮すべきではないか」、「予選会を1週遅らせ開催することはできないのか」、「大会の中止が続くとライフセービングスポーツに未来はない」などのご意見は、実行委員会といたしましても大変心苦しく、受け止めさせていただきました。

お寄せいただいたご意見につきまして、慎重に協議を重ねた結果、今回の本選出者選出方法は、「南関東ブロックとして獲得した出場枠なので、南関東ブロックに所属する全てのクラブに参加の機会を与えたい。」との観点から、下記の通り決定とさせていただきます。なお、この決定は、「今回の本戦出場者決定のみ適用するもの」であることを申し添えます。

ご意見等あるかと存じますが、何卒、皆さまのご理解ご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

### 記

#### ■ 選出における基本的な考え方

まず、各クラブより各種目への参加意思確認を行います。その上で以下に基づき、出場枠の分配を行います。

- ① 参加クラブ数による**均等分配**
- ② 2018年度の各クラブの**入賞者の数**による配分
- ③ 2018年度の各クラブの**本選出場数**による配分

※選出する選手の「競技レベル」にご配慮をお願いいたします。全日本本戦では、「準決勝」より実施されます。

#### ● 参加クラブ数より、南関東ブロックに割り当てられている本選出場枠が多い種目

この種目では、すべての参加クラブに出場枠「1名」を付与します。つまり、この種目においては全のクラブに最低1名の参加することが出来ます。その上で、余った出場枠は、2018年度の各クラブの競技成績（入賞者の数→本選出場者の数）に応じて再度分配致します。

#### ● 参加クラブ数より、南関東ブロックに割り当てられている本選出場枠が少ない種目

この種目では出場枠が少なく、均等分配が出来ない為、2018年度の各クラブの競技成績（入賞者の数→本選出場者の数）に応じて分配します。

## ■今後の予定（予定）

- ・8/21（土） 選出方法のご説明会 （実行委員会→各クラブ）
- ・8/25（水） 各クラブ様へ各種目への出場意思表示のお願い （実行委員会→各クラブ）
  - 回答フォーム→ <https://forms.gle/hwg7gwVdWDztQtEj6>
- ・8/29（日） 各クラブ様から予選会の参加の意思表示の締め切り （各クラブ→実行委員会）
- ・9/02（木） 各クラブ様の割り当て数の発表 （実行委員会→各クラブ）
- ・9/13（月） 各クラブ様より選手名簿の提出締め切り （各クラブ→実行委員会）
- ・9/17（金） 各クラブ様へリストのお戻し、最終チェックの依頼 （実行委員会→各クラブ）
- ・9/21（火） 各クラブ様で最終確認、ご提出 \*
- ・9/22（水） 本選出場者の名簿を JLA に提出 （実行委員会→JLA）

\* 各クラブの最終リストの提出後、選手の変更はお受けすることが出来ません

## ■ご注意

コロナの感染拡大の状況次第では、「**全日本選手権の中止の可能性**」も十分ございます。今後の見通しについては JLA とも連携を取りつつ、迅速に情報の共有に努めてまいります。

以上

## 【出場意思表示回答フォーム】



■ 予選会に関する説明会に関する質疑応答について（2012年8月21日(土) 19:30～@Zoom）

【質問 1】 このような方法（参加枠割り振り）で、競技レベルが保てるのか。北関東ブロックは予選会を実施する予定であり、実践を勝ち抜いた選手が本戦に出場してくるので、今後の南関東にとって不利になるのではないかと。

【回答 1】 このような状況の時だからこそ、まずは全クラブに出場の機会を与えたい。各クラブからの選手選出方法は、各クラブにお任せするが、「全日本本戦出場者を選ぶ」という意識を持って選出していただけたらと思っている。今回の全日本本戦競技結果は、来年大会の出場枠や日本代表選手選考には影響しないと、JLA は述べているので、不利になることはないと思う。

【質問 2】 19 年度も予選会を行っているのに、なぜ、18 年度実績なのか。

【回答 2】 JLA から示された本戦出場枠の割り振りは「18 年度競技結果」を元にしていただいているのでそれに準じている。19 年度は、一部予選会において荒天のため予選が行われていない種目があり、予選会を完全実施できた 18 年度結果を採用している、とのことである。

【質問 3】 活躍著しい若い選手へ、出場枠を割り振るなど、配慮すべきではないか。

【回答 3】 ごもっともなご意見であり、大変心苦しいところであるが、「参加クラブ均等割り」を基本とし配分していきたいので、選手を選抜する際、各クラブにおいてご対応をお願いしたい。

【質問 4】 来年も感染状況が落ち着くとは限らない。選手たちは大会の中止が続き、モチベーションが保てなくなっている。大会を実施している、他の競技スポーツに移ってしま子供たちもおり、このままでは、ライフセービングスポーツは衰退してしまうと考えるがどうか。

【回答 4】 各大会の中止は、本当に心苦しく、選手の皆さんへの影響が大きいことは理解している。感染状況が落ち着くことを見据えつつ、大会の開催に向け、今後とも取り組んでいきたい。

【質問 5】 予選会の開催を一週遅らせて開催することはできないのか。

【回答 5】 一週遅らせることにより、北関東予選会、東海予選会と日程が重なるため、審判員の確保や資器材の確保など物理的な問題もあり難しい。

【質問 6】 チームとして予選会に出場するかどうか、25 日までに参加意思表示をすることになっているが、種目ごとの参加意思表示ではないのか。例えば、サーフスキーに乗れるメンバーがいらない、というクラブもあるはずで、その枠は、希望するクラブに割り振るべきではないか。

【回答 6】 種目ごとの参加意思表示は、時間がかかるのではないかと考えた。期日までに種目ごとの意思表示が可能ならば、限られた枠の有効活用のため検討したい。  
→後日、検討の結果、種目ごとの意思表示とし、締め切りを 25 日から 26 日とした。

**【別紙】**

**【質問 7】** クラブ均等割りではなく、19 年度実績に基づき、本戦出場枠をクラブに割り振ってはどうか。

**【回答 7】** 実行委員会で再度検討したい。

→後日、検討の結果、移籍したメンバーがいた場合、追跡しなければならず、全てを突合するには作業が多く、時間的に厳しく難しい。このような状況だからこそ、南関東ブロックとして獲得した枠は、南関東ブロックとして広く活用できることが望ましく、「クラブ均等割り」を基本としてお願いをする。

以上